

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 10

2014年5月27日(火)発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL：042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

2014年の白梅学園大学 家族・地域支援学科 近況報告

白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科 土川 洋子

新緑の季節になりました。皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

小平西地区ネットワークでお世話になっております、白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科の土川です。このネットワークの代表である草野篤子先生が、今年の3月をもって定年を迎えられ、退任されました。しかし、退任直前に療養生活に入られましたため、ご挨拶できないままとなっております。代表は続投していただいておりますので、快気されました折に、改めてご挨拶させていただきます。同じく、会の運営に大きくかかわっておられる瀧口優先生が、1年間の長期研修に入られました。



2014年度に入り、小平西地区ネットワークは3年目を迎え、にしのきずなも第10号となる節目です。そこで、2014年に入ってから白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科の状況を僭越ながら、代表に代わって簡単にご報告させていただきます。

草野先生の退任を受けて、新たに井原哲人先生が家族・地域支援学科に着任いたしました。井原先生は、以前から小平西地区での活動をされておりましたので、本会にとりまして、とても心強い仲間が増えました。

また、新入生も45名を迎えて、新たにスタートしております。新入生のオリエンテーションセミナーでは、「小平西地域を歩こう」と題して、ほっとスペースさつきをはじめ、夕やけこどもクラブ、ニチケアセンター鷹の台、サングリーン、共同ホームつくしんぼ等、小平西地区の地域活動の実践を見学させていただきました。これからの学びに大いに役立つ有意義なセミナーとなりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。同時に初めての卒業生を輩出し、多くが福祉実践の現場に巣立ったところです。卒業生の活躍を祈念するとともに、学科名同様、家族・地域支援について、ますます研鑽してまいります。



今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

画像 ほっとスペースさつき訪問（白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科 新入生オリエンテーションセミナー2014.）

「西地区地域ネットワーク」って何？

2012年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

「小平西地区地域ネットワーク創立3年目に入って」

草野 篤子

小平西地区地域ネットワークが創立されてから早や2年2カ月を迎え、この『西のきずな』も第10号を発行する運びとなりました。このことは画期的なことです。その間、当初、予想した以上の成果をあげることができてきました。

白梅学園大学でのコミュニティ・カフェも、2年目を終え、3年目に入りました。「ほっとスペースさつき」をはじめ、居場所づくりも、着々、地道に進んでいます。

最近コミュニティ・カフェを2013年春に白梅学園

大学から博士号を授与され、東京都健康長寿医療センター研究員をしている安永先生が、家族・地域支援学科の学生と一緒に運営・サポートしてくださっています。

一方、私は入院中でみな様にご迷惑をおかけしていますが、経過は良好です。皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまい、本当に申し訳ございませんが、近いうちにまた、皆様とお目にかかれるのを、とても楽しみにしています。

2013年度 小平西地区地域ネットワークのまとめ

1. はじめに

2012年3月17(土) 設立集會が開催され、「小平西地区地域ネットワーク」(以下、小平西ネット)が発足し、丸2年が経過しようとしています。この間の取り組みに対する評価としては、日々の運営上の課題などを含み、地域懇談会の開催においては若干の工夫をしながらも、当日の参加者の輪を広げることについては芳しい状況ではありませんでした。しかし、各ブロック並びにブロックの枠を超えた相互交流の輪は広がり、顔の見えるネットワークづくりは少しずつ進展していると思われま

す。ここでは2年目の活動報告と3年目に向けての課題について述べさせていただきます。

2. 2年目の活動報告

今年度の活動については、①年間行事、②地域ブロックの動き、③全体を通じての動きに分けて報告したいと思います。

1) 年間行事について

今年度は、地域懇談会を4回、世話人会を4回、学内打合せ会を7回持ちました。地域懇談会においては話題提供として、5月には地域包括支援センターけやきの郷の増永さんから「小平市介護予防見守りボランティアのモデル事業について」、9月には小川公民館の井上館長から「公民館活動と地域について」、12月はDVD上映「国立ハンセン病療養所沖縄愛楽園の患者を戦火から守った早田医師の功績」、そして第4回目(3月)は、小平市役所市史編纂課の蛭田氏による「小平のまちづくりの特徴ー生活・自然・文化ー」講演会が行われました。

1回目、2回目においては、短時間の中の報告であり地域課題の深まりという点では運営上の課題がのこり、世話人会等においてさまざまな指摘がありました。また、地域懇談会に関しては時間や曜日など、何らかの工夫が必要になっていると思われま

2) 地域ブロックの動き

一方、各地域ブロックを中心にした取り組みでは、さまざまな展開がありました。

第一ブロックでは、地域住民と行政、大学の3者が行政施設(小川西地域センター)を活用し、世話人会による年間計画づくりや地域のドクター(ちあきクリニック院長)から学ぶコミュニティ講座などを開催することができました。また、市民協働の職員も関わり、住民ニーズについての全戸調査についての話し合いも出されるようになってい

ます。第二ブロックでは、地域の自治会との懇談会を開催し、また、地域の防災訓練などにブロックの世話人と学内のメンバーが参加し、地域で行われてきたこれまでの活動を活かしながら、コミュニティの理解と活性化のための方策が検討されました。

第三ブロックでは、大学の文化創造ホールなどを会場に、世代間交流論・演習の授業の一環でコミュニティカフェ(世代間交流広場)が8回開催されました。地域住民や地域のデイサービスセンターの利用者等が参加され、学生も交えた交流が行われました。

第四ブロックでは、昨年の2月28日にコミュニティ

サロン「ほっとスペースさつき」(鷹の街道沿い、小川公民会入り口左手)が開設され、週2回(火・木)の開催に平均10名の地域の方が来訪し、心の病、重荷を抱えた人、認知症の人とそのご家族の利用などが増えています。世代間交流を行うにあたっての配慮や工夫など、地域の諸問題と地域が繋がるための方策が少しずつ見えてきています。

3) 全体を通して

ブロックごとの取り組みを上記では報告しましたが、地区分けは便宜上でありそれぞれが相互交流をしながら地域は動いています。

そのような取り組みの相乗効果としては、地域の居場所としてコミュニティサロン「ほっとスペースさつき」が始まり、8月には、「アットホームはぎ」(毎月7/17/27日に開催)がたかの台地区に誕生しました。さらには、大学のすぐそばにコミュニティサロン「ほっとスペースきよか」が始まろうとしています。それぞれに特徴がありますが、少しずつ小さな拠点、地域の居場所が生まれてきています。

また、小中学校とのつながりも新しい動きができてきています。第一小学校においては、昨年度も納涼祭に大学の学生たちが参加しましたが、今年度は納涼祭や体育祭にも声がかかりました。また、大学の学生と職業能力開発総合大学校との連携によりテーブルづくりが行われ、第一小学校に届けることができました。さらに、第五中学校の生徒を中心に「楽しく学べる中学生勉強会」が、小川公民館(週1回、木曜日の夜間)で始まりました。スタディパートナーとして、地域の方々、大学の教員、学生も参加しています。

加えて、市内の公民館で西ネットの話をする機会、新聞・雑誌等への掲載など、少しずつですが、認知がされつつあると思われます。

3. 次年度に向けて

次年度は、小平西地区地域ネットワークの設立から3年目となります。地域の課題は大まかには確認できてきていますが、そろそろ、地域で暮らす人たちのニーズや思いを本格的にかつ客観的に把握するための方策を検討する時期に来ているのではないかと考えます。

高齢者分野では、2015年度からの「地域包括ケア体制」をどのようにつくっていくのが近々の課題ではありませんが、地域で誰でもが安心して豊かに暮らし続けるには、どのような支え合いが必要なのでしょう。地域住民と行政と大学が一丸となって取り組めるようなしくみづくりを、みんなで考えて、行動に移せる次年度して行けたらと考えます。(文責:森山千賀子)



2013年白梅祭での小平西地区地域ネットワーク取組

陸前高田図書館ゆめプロジェクト

昨年の大学の学園祭(白梅祭)で、東日本大震災の支援として本を集めました。学校関係や地域からたくさんの書籍を寄付していただき、その後の追加と合わせて4月に段ボールで6箱送りました。送った本は「バリューブックス」が引き取り、本代として陸前高田市の図書館建設に充てます。現在2000万円を超える寄付が集まっているそうです。個人でも取り

組めますので以下のホームページを覗いて見てください。また西ネットとしても継続して取り組みますので、本をお寄せください。ただしISBNがついている本(1990年以降に出版された本)に限られるそうですので、出すときには確認をお願いします。

陸前高田図書館ゆめプロジェクト

<http://books-rikuzen.jp/>

第 14 回小平西地区地域ネットワーク懇談会報告

「小平市の街づくりの特徴－生活・歴史・文化－」

蛭田廣一氏（小平市市史編纂課長）

3月11日（火）17時30分より白梅学園大学 G26 教室で、第14回小平西地区地域ネットワークの懇談会が開催されました。開会あいさつの後、白梅学園大学家族地域支援学科の学生より、卒業研究に取り組んだ報告があり、学生が地域に目を向けた活動や研究を行っていることを示しました。

続いて小平市市史編纂課の蛭田廣一課長より、小平の歴史を「小平市の街づくりの特徴－生活・歴史・文化－」として講演していただきました。講演の一部を掲載しましたのでお読みください。小平市がどのように形成されてきたのか歴史を踏まえてまとめてあります。

1. 小平市のはじまり

小川村の開発が360年前に始まったということをお話ししましたが、それはこの小川地域に生まれた村にすぎません。小平という20平方キロの範囲に、村が続々と作られていきます。最初にできたのは小川村ですが、享保の新田開発、テレビドラマで出てくる将軍と言えば八代吉宗という、暴れん坊将軍などというテレビ番組もありましたけれども、その主人公である八代将軍の時代に、この小平という地域は大半ひらかれたのです。享保の時代にはじめて新田として開かれた地域であります。

そういった村々が個別の歴史を歩む中で、はじめて1つのコミュニティ、村というものをまとまって作ったのが明治22年です。それまではそれぞれ独立した近くにあるのですが、独立した地域でしたのでまとまりはありませんでした。この小平は小平村の成立から120数年ということになるわけですね。

その明治22年の4月1日に、それぞれ独立して存在してきた7つの村、小川新田、鈴木新田回り田新田、野中新田与右衛門組、野中新田善左衛門組、大沼田新田、そして最後に小川村、そして付け足しですが、久米川村の飛び地、これは小平の歴史に詳しい人

でもあまり知らない事実です。小川村というのは、今東村山市に久米川という地域があって、それが江戸時代に久米川村があった地域なのです。その飛び地が大沼田新田の中にある、これはずっと江戸時代を通じて存在してきました。そしてこうやって明治になっても、小平の範囲の中にあっただけで、東村山にそこだけ飛び地として入れるのはおかしいということがありまして、小平の中に飛び地が含まれて、7戸村と飛び地で形成されたのは明治22年でした。

それから時代をだんだん下っていきますと、アジア太平洋戦争、第二次世界大戦中の昭和19年2月11日に町制を施行します。そして戦後昭和37年になりまして、市制を施行して今の小平市になります。

2. 小川村のはじまり

では小川村ができる前はどうかだったのかということをご一緒にお話しさせていただきたいと思います。武蔵野台地という地理学的な見地からしますと、もっともっと古いことが地層の関係で分析していくとわかるようです。そのこともこの小平市史の地理編には書かれております。実はこの辺は古い時代は多摩川の河川敷だったと言われています。ですから多摩川というのはものすごい範囲、狭山丘陵から今の南多摩あたり、どんどん南の方に本流が移って行ってしまったんですが、狭山丘陵のもっと北側も含めて河川敷だったのです。（以下続く：文責：瀧口）



地域のきずなを一層豊かに強くしていくために

第1ブロック世話人 西 克彦（小川西町1丁目在住）

第1ブロックは、小川西町、栄町、国分寺線から府中街道までの小川東町、小川町1丁目などの地域を対象にしています。南は青梅街道、北は野火止用水、東は府中街道にかこまれ、その中を西武の国分寺線、新宿・拝島線が走っています。

「住みよい地域づくりのためにお互いに顔の見えるつながり、ネットワークを」との白梅学園大学を挙げての呼びかけとご協力に支えられながら、決して満足とは言えませんが、それなりに「地域性」を発揮して、3年間の活動を進めてきました。地域の自治会、商店街、公民館利用市民、保育園・幼稚園・小・中学校・特別支援学校、公共機関、市民グループ、高齢者会、市の職員や民生委員、社会福祉協議会などのご協力も得て、それぞれの取り組みで、ユニークで貴重な経験・実績を重ねております。

例えば、去年の障害者センター祭りでは、地域の高齢者の「料理愛好」グループや、白梅の学生さんによる売店などが出されるなど、新しい協力も生まれています。それらが、「目に見える地域力」、「ご近所の底力」の発展につながり、また大学の若者たちにとっても、よき経験と学びになってくれているものと思っています。

「第1ブロックの地域のつながりの発展の今後は？」と考えると、現状でも小川西町は、市内では、高齢化率の高い街になっていますし、地域内の自治会活動も、高齢化の影響を受けて、困難も生じていますが、「これからが高齢社会の本格化の時代」と受け止めて、次世代の皆さんへの継承・発展の努力も行われています。

コミュニティタクシーの利用者は増え続け、「休日にも走らせて、社会参加の道を広げて」の声も強まっています。

小川駅の西・東口や周辺をどんな街にするの

か？の問いかけと今後の具体的な検討も地元の市民に投げかけられています。これはすでに、多くの市民も参加してのワークショップという検討も行われました。そこでも、安心・安全、賑わいや絆づくりが話題になっていました。

このネットワークの動きの中で、第2ブロックという大学の周辺の地域では、地域内の家主さんからアパートの部屋をお貸しくださるとの申し出をいただき、「カフェ」を開いて、地域の高齢者の集う場所ができて好評です。運営は、高齢者の皆さんを中心にして、数十人の方々が、お世話をする形が作られてきています。

これらを見ると、防災、安全などでは特に、今まで以上に地域の多様な形のつながり、絆、そして「顔の見えるネットワークづくり」は、私たちが、この町に住み続けるうえで一層大事な土台になっていくのではないのでしょうか？

引き続き、地域の皆さんからの広いご参加とご協力、市や公共団体、大学の皆さんなどからの専門的なお知恵やエネルギーなどの援助もいただきながら、第1ブロックでもこのネットワークを一層役立つものになるよう育てていただけますよう、お願いいたします。



「ふくしまキッズプロジェクト in こだいら」に参加して

家族・地域支援学科 4年 向笠 聡

白梅子育て広場は、2年前に多くの地域団体と合同で「福島と小平の子どもたちの会」を結成し、福島の子どもたちを小平市に招き、外遊びをするという大企画を開催しました。今回は、「ふくしまキッズプロジェクト in こだいら」に名前を改め、5月3日(土)～5月6日(火)に開催し、白梅子育て広場は4日(日)と5日(月)に参加しました。

4日(日)は「こだいら自由遊びの会」が中心となり、きつねっばら公園小平子どもキャンプ場にて開催。広々とした公園でロープのブランコや穴掘り、工作等様々な遊びが展開されました。終盤には、大道芸のパフォーマンスを観ることができ、大盛り上がりの一日となりました。

5日は、「ボーイスカウト小平第5団」が中心となり、さいたま緑の森博物館(瑞穂)にて開催。5グループに分かれて、山の中をハイキング。目印を頼りにゴールを目指しました。道の途中で、植物の絵を描く等の課題が設けられ、一生懸命絵を描く姿が見られました。ゴールに到着し、昼食をとった後は、ロープ渡りや氷オニ等の体を使った遊び。子どもたちは、長い山道を歩いた疲れを微塵も感じさせない程、元気に走り回っていました。

2年前にも参加した学生から「学生は子どもたちと年が近いので、初対面でもすぐに打ち解けて仲良くなることができました。今回の企画を通し、知識や経

験が豊富な大人たちと協力し、学生の若い力を発揮することが必要だと感じました。なので、学生の内から地域での活動に参加していき、互いに刺激し合うことが大事だと思いました。」といった感想がありました。

今回、白梅から17名の学生が参加し、「子どもたちと思いきり遊ぶ」という学生の役割を果たすことができ、数多くの地域団体や人との“つながり”を改めて築くことができたことで、今後の活動に活かすきっかけとなったと考えられます。

再びこのような大きな企画にお誘いいただいたことで学生にとって、大きく貴重な経験をすることができました。全ての共催団体、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。



要約筆記サークルのお世話になりました

白梅学園大学には現在聴覚障がいの学生が学んでいます。授業では教師の語ることばをその場で文字にして(ノートテイクと言います)、障がいを持った学生の学習を支援しますが、この4月は学生たちもノートテイクの対応ができず、大学としても困っていました。3月に西ネットの世話人会を通じて地域のボランティアを募ったところ、要約筆記サークル

の皆さんからご協力いただき、全ての授業をノートテイクすることができました。

大学としてはどのような障がいを持っていても、本人に学ぶ意欲と条件があれば積極的に受け入れていくことを確認しています。今後も地域の皆様のご協力をいただければ幸いです。

子どもの気持ちに寄りそう子育てを

(文責) 白梅学園大学教育福祉研究センター嘱託研究員 奈良 勝行

去る4月12日(土)午後、学び舎江戸東京ユネスコクラブは、中央公民館ホールに白梅学園大学の汐見稔幸(しおみ・としゆき)学長を招いて特別講演会「今日の子育てに必要なことは」を開催しました。

当日は約80人の市民の方々が参加。まず渡部会長が開会あいさつし、続いてゲストの小林市長・関口教育長・杉本准教授があいさつ。汐見学長が70分間講演し、休憩をはさんでフロアから質問に学長が答えるという形で進行。質問が約13問におよび、学長が丁寧に答えました。終了後のアンケートの結果では、「大変良かった」が8割を占め、大好評。「もっと聞きたかった」の声が多数ありました。



2014/04/12

【講演要旨】

1. 「子育て」と「子育て」

「子育て」とは「子育て」が前提で成り立つ営みであり、「子育て」とは、自分の心身の力を伸ばすことを直接の目的としているとは限らない子ども自身の生活行為の中で、子どもの心身の力が結果として育つことである。その子育てが最近大きく変容してきている。次のような事柄である。

- (1) 遊びの面・・・今日、道路等で群れて遊んでいる子は見たことがない。自然の中での遊びからゲーム的遊びへ変容している。
- (2) 家事・仕事の手伝い・・・ほとんどなくなってきている。自覚的に手伝わせる家庭でないと、子どもは失業状態になる。
- (3) 情報の入手・・・本、テレビ、ビデオ、マンガ、ネット等による入手が激増している。
- (4) 欲求の実現・・・
遠くに出かける、ほしいものを買える、いろいろな服が着られるといった欲求が簡単に実現できる。そのため自己有能感が変容している。
- (5) 学びの場の多様化・・・習い事が驚くほど増えた。そろばん、公文、習字だけだった段階から、子ども料理教室、サッカー、テニス、卓球、体操

等のスポーツ教室、ピアノ、バイオリン、など。

(6) 子どもの貧困の拡大・・・日本の貧困率は14.9%になり、世界の中でとても高い国。それを国民が自覚していない。

2. 「子育て」と「子育て」の支援に何が必要か？

<子育て支援>と<子育て支援>の双方を射程にすえて以下のような支援が必要と考える。

(1) 気軽に相談できる、子育ての知恵をもらえる場の設置

世代間交流ができるコミュニティ・カフェ、小規模保育園、フィンランドのネウボラなど

(2) 「駆け込み寺」の設置や空き家の有効活用

夜働かざるを得ない親、DVから逃げたいと思っている親、急に実家の親が入院して困っている親のため。

(3) 自由に冒険できる場(プレイセンターなど)や「子ども110番」の設置

(4) 子どもの貧困に立ち向かう施策

学校や授業について行けず、塾にも行けない子への支援。自然の中で遊んだり、文化体験をする機会の提供。



「中学生勉強会」さらに充実

石川 貞子

昨年12月12日に発足した勉強会は新年度に入り生徒は20人の定員に達し、講師陣は4月の市報募集広告で新たに4人——元中学教師、カウンセラー、病院職員、主婦と多士済々——が加わり一段と強化。

5月8日時点で勉強会数は17回。教室も2つに増やし、充実した指導ができるように配慮。生徒の出席率は毎回8～9割。

4月27日に第1回保護者会を開いて保護者の意見も取り入れ、また5月1日に講師会を開き今年度の運営方針を討議し、より充実した勉強会を目指しつ

つあります。

世話人会・懇談会でも話したように、来年度「生活困窮者自立支援法」に基づく学習支援事業への参加を目指し、近く行政側と協議を開始することにしていきます。皆さんのさらなるご協力を——。



ブロック・団体のイベント予定

「こだいら自由遊びの会」

6月8日(日) 10時～17時 中央公園の林

7月26～27日(土・日)《キャンプ》東大和七森キャンプ場 (連絡先:足立 隆子 042-344-6508)

子育て広場「あそぼうかい」開催のお知らせ
日時、場所等の開催情報が決まり次第、以下のペー

ジにて報告をしていきます。是非チェックしてみてください。白梅子育て広場ブログ：
<http://nanatunohiroba.blog.fc2.com/>

今後の予定

7月8日(火) 世話人会

9月9日(火) 世話人会

13日(土) 懇談会

ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブロック	世話人	教職員
1	西 克彦	井上恵子・山路憲夫・ 瀧口 優・福丸由佳
2	芳井正彦・足立隆子 早田 満	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野篤子・瀧口眞央・ 西方規恵・牧野晶哲
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	杉本豊和・森山千賀子 井原哲人
全体的		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。
奈良：メールアドレス

ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記 今号から編集発行を各ブロックの学内・地域世話人をお願いすることにしました。今後も引き続きご協力ください。(N)